

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 138 号

平成 29 年 5 月 1 日発行

発行所 : 旭労災病院

〒4888885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

C型肝炎について

消化器科主任部長 小笹 貴士



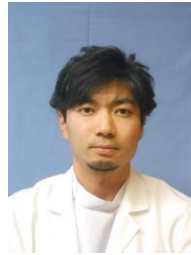
C型肝炎治療は2014年からインターフェロン(IFN)フリー治療が開始され、その後次々と新薬が登場しSVR(sustained viral response)率はほぼ100%近くになっています。IFNとは異なりほとんど副作用もなく、若干の注意(Ca拮抗薬の内服、腎機能障害の有無など)をすればほぼどのような患者さんでも治療可能となりました。実際今まではIFNがいやで治療を拒否していた患者も積極的に治療を受ける様になっています。しかし、国内では未だ肝炎ウイルス検査を受検していないC型肝炎患者が約30万人、陽性と指摘されたのに受診していない患者が約25万~75万人、新規患者が3.3万人存在するといわれています(田中純子:肝炎ウイルス感染状況・長期経過と予後調査及び治療導入対策に関する研究.平成26年度総括)。これら未治療患者を拾い上げるためには医師、看護師を含めた医療従事者からの積極的な声かけが必要と思います。

また、治療によりSVRが達成されると、肝発癌リスクは有意に低下します。しかし、完全にはリスクが消失する事はなく、たとえばIFN治療によるSVR後の5年、10年後の発癌率はそれぞれ2.3-8.8%、3.1-11.1%と報告されています。このことはウイルスが排除されても健常者に比べ発癌リスクの高い状態が長時間続く事を示唆しています。SVR後の発癌リスク因子としては肝線維化、高齢、男性、アルコール摂取、脂肪肝化、糖尿病、治療後AFP高値などがあげられています。しかし、SVR後のフォローアップをどのように、いつまで行っていくのかは決められていません。わが国におけるSVR症例562例からなるコホートを解析した後ろ向き研究では、定期的肝癌スクリーニング(腹部超音波を少なくとも6か月毎)を受けていた症例の5年生存率が93%であったのに対して、受けてない症例では60%と予後不良でした。SVR後における肝癌スクリーニングの効果的な方法や有用性を前向きに直接検討した報告はなく、費用対効果も不明ではありますが、患者背景(年齢、ADL)やリスク因子の有無(特に肝線維化)などを考え、個々判断しながらできるだけフォローアップしていく必要があると思います。

肝炎の拾い上げのため、肝機能異常を診たときは「肝炎の検査をしたことありますか?」と一声かけてみてはいかがでしょうか。また、「この人透析中だけど治療できるのかな?」、「高齢だけど元気だし治療できるのかな?」、「肝炎だけは治療後のフォローをお願いできないかな?」等お困りのことがあれば、いつでもご紹介いただければ幸いです。

鼻呼吸障害について

耳鼻咽喉科副部長 清水 崇博



鼻呼吸とは、外鼻孔から鼻腔を通り、咽頭、喉頭、気管を介して行う呼吸のことで、その役割としては、吸気の加温・加湿・浄化作用などによる下気道の保護があります。安静時呼吸時に 22.5℃の外気圧は鼻腔通過時には 33.4℃まで加温され、吸気における相対湿度は 75～90%まで加湿されると報告されています。また、径が 15 μm 以上の粒子のほとんどすべてが、4.5 μm 以上のものはその 85%が鼻粘膜上の粘液層により吸着され、繊毛により咽頭に運ばれます。ちなみにスギ花粉は 30 μm 、ダニ糞粒は 10 μm 以上なので、ほとんどが鼻腔で吸着されていることとなります。それに加えて、呼吸抵抗による換気に最適の呼吸リズムや深度調節などがあります。

鼻呼吸障害とは、上記のような生理的な鼻呼吸がなんらかの理由で障害され、口呼吸を余儀なくされている状態をいいます。鼻呼吸障害は、局所から全身までさまざまな影響を及ぼすことが指摘されています。

- ・口腔 咀嚼効率の低下、唾液の自浄作用の低下による虫歯、歯周病
- ・咽喉頭 咽頭腔の狭窄による閉塞性睡眠時無呼吸症候群
- ・下気道 肺炎、誤嚥性肺炎
- ・睡眠 不眠、眠気、閉塞性睡眠時無呼吸症候群
- ・精神 集中力の低下、抑うつ症状

鼻呼吸障害をきたしうる主な疾患には、慢性副鼻腔炎、なかでも難治性の好酸球性副鼻腔炎、花粉症などのアレルギー性鼻炎、市販の血管収縮薬の点鼻薬を長期連用することによる薬剤性鼻炎、鼻中隔湾曲症、小児のアデノイド増殖症、鼻副鼻腔腫瘍などが挙げられます。原因を診断し治療を行うことで、鼻呼吸障害による影響や QOL の改善も期待できる可能性があります。当院では画像検査、保存的治療や外科治療を幅広く行っております。

今年度から耳鼻咽喉科常勤医が 2 名となりましたので、手術治療も行える体制も整えております。「鼻づまり」でお困りの患者さまがみえましたら、いちど当院へご紹介いただければ幸いです。